

先生のための保健室

精神疾患や発達凸凹のある保護者へのかかわりのために1



手に取ってくださりありがとうございます。

保護者にもいろんな方がいます。なかには病気を抱えながら子育てをがんばっている人も。保護者への対応で、悩んだり、ヒントを探したりしていませんか？養護教諭と小学校教諭、精神保健福祉スタッフが中心になってウェブのページをつくりました。このシートにはそのポイントをギュッとまとめました。

対応の2原則

保護者と一緒に考える

否定しない、責めない

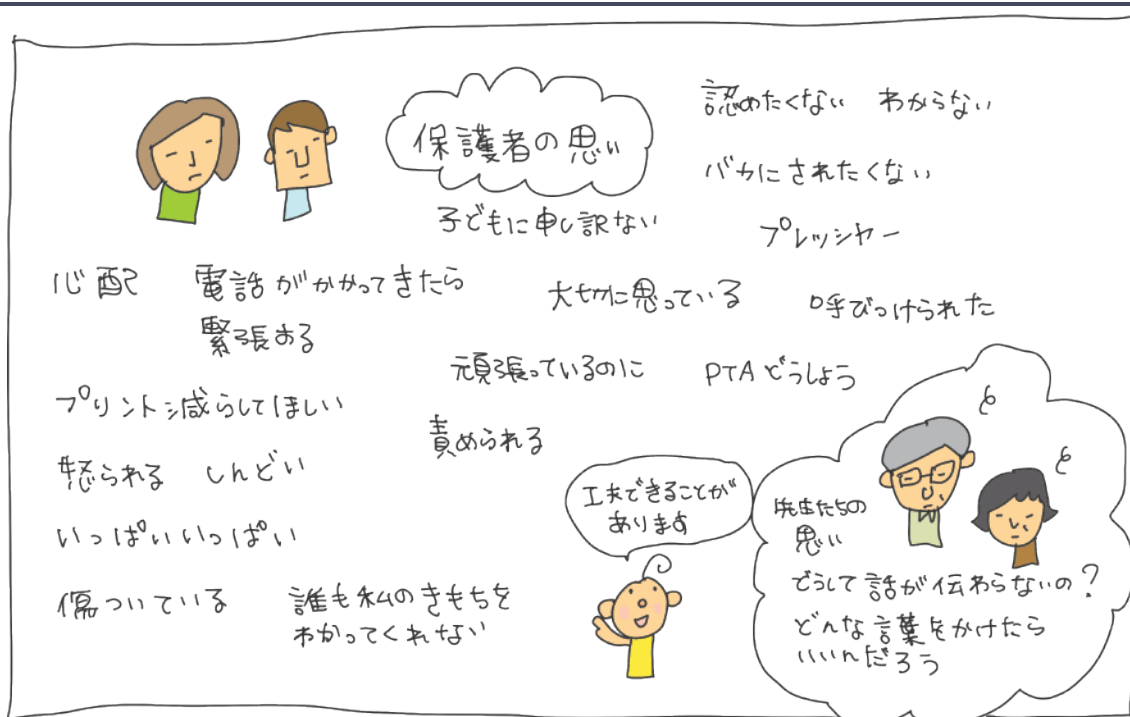
みんなで対応する

迷ったら、困ったら、
1人で抱えこまない

*視点を少し切りかえてみることで、対応のヒントが見えてきます！



保護者の思いいろいろ



先生のための保健室

精神疾患や発達凸凹のある保護者へのかかわりのために2



具体的ななかかわりヒント集

ありがとうを伝える

病気のことを打ち明けられたり、何か相談されたりしたときには、まず「お話をくださってありがとうございます」のひとことを伝えます。

理解する

怒りや拒絶の気持ちは「わからない」や「不安」から生まれることがあります。コミュニケーションにズレが起きているなど感じたときは、相手がどのような気持ちや認識のズレを持っているのか丁寧に聞いて理解することから始めます。

シンプルに伝える

気遣いをして遠まわしな言い方や相手の出方を待つよりも「シンプル」で「わかりやすく」「直接たずねる」ほうがうまくいくことがあります。

みんなで子どもの育ちを支える

保護者の方のできていることや工夫に注目！

地域



家庭



学校

相談機関、専門機関
制度やサービス

先生もいろんな個性があっていい

1人でかかえない

クラスの運営や日ごろの指導は担任の先生が中心となりますが、先生だって一人の人間。いろんな役割の先生（オトナ）と関わることが、子どもの成長につながります。

継続可能な支援を

地域、専門家の力も積極的に活用し、組織で対応します。

記録をして、正確な情報が共有や引継ぎができるようにします。窓口を決めることもスムーズな連携に役立ちます。

先生同士で会話を

違和感をもったことを日ごろの会話の中で話題にすることが、早期発見、早期対応につながります。

いろいろなことを周りの先生から教えてもらったり、一緒に考えたりする職場の雰囲気づくりが大切です。



否定する 責める 説教する
ながら対応 だらだら対応
はれものにさわる 先回りしすぎる
最初からクレームと決めつける etc

NG

